

京都府亀岡市で確認されたヒメカマキリの記録

山下航平・大秦正揚

ヒメカマキリはハナカマキリ科ヒメカマキリ亜科に属する樹林性のカマキリである。一般的な体長は2.5～3.2 cmであり、草地性の小型種であるコカマキリと比較してもさらに小さい(日本直翅類学会, 2016)。京都府での確認情報は相楽郡と京都市に限られた準絶滅危惧種であり(京都府, 2015)、京都府における確実な記録は少ないとされている(中尾, 2022)。本稿では、京都府でこれまでに記録のない亀岡市において本種を複数個体確認したので報告する。



図1. ライトトラップのシートに掴まるヒメカマキリ。

2023年9月13日、京都府亀岡市の某所樹林内(準絶滅危惧種指定であることを考慮して詳細は記載しない)において、20:00～24:00までのライトトラップ(カーテン法)調査を行ったところ、本種が2頭確認された。確認された時間は20:40と21:55であった。確認された2頭の内の1頭の写真画像を図に記す(図1)。体長が3 cm前後である小型のカマキリであること、確認時期が9月であり近縁種サツマヒメカマキリの出現期(5-7月)と異なっていることから、ヒメカマキリと同定した。本種の亀岡市での確実な報告記録は今回が初となるが、個人のホームページではすでに発見確認事例が存在する(「アタの雑記」<https://atanote.blog.fc2.com/blog-entry-250.html> /2024年1月22日閲覧)。また、兵庫県の2015年版レッドリストで要注目種として取り上げられていた本種は、2022年版では「生息地の環境は普遍的な雑木林等で、各地から情報がある」として削除されており(兵庫県, 2022)、かつ兵庫県以外の京都府の近隣府県ではレッドリストへの記載がない。これらのことから、今回報告した季節と時間帯に樹林内でライトトラップによる調査などを行えば、京都府の他所の樹林内においても、本種がひそやかに個体数を維持

して生息していることが分かるかもしれない。

○参考文献

- 中尾史郎, 2022. ヒナカマキリとヒメカマキリの京都市における最近の記録. 京都府立大学学術報告 生命環境学, (74): 21-22
- 日本直翅類学会(編), 2016. 日本産直翅類標準図鑑. 学研プラス.
- 京都府, 2015. 京都府レッドデータブック 2015. 京都府環境部自然環境保全課. (<https://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb/bio/db/ins0225.html>)
- 兵庫県, 2022. 兵庫県版レッドリスト 2022. 兵庫県環境部自然鳥獣共生課. (<https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/application/files/2816/8429/7316/d3754a971baa12dcf89737bfed57cb7f.pdf>)

(Kouhei YAMASHITA 京都先端科学大学)

(Masaaki OHATA 京都先端科学大学)

ケブカマルクビカミキリを西宮市で確認

小西和夫

2024年4月11日、西宮市(仁川町)でケブカマルクビカミキリ *Atimia okayamensis* Hayashi, 1972 を1ex. 確認したので報告する。

甲山の裾野から広がる丘陵地帯にネズミサシが点在しており、この数年春先に掬っていたが今回初めて網に入った。



図1. 西宮市産ケブカマルクビカミキリ(2024.4.11).